

校内研修動画 & 協議・演習 企画書

動画番号 A	題名 「主体的・対話的で深い学び」について		
ねらい	学習指導要領に示された「主体的・対話的で深い学び」について理解を深める。	所要時間 (10) 分	動画 (10) 分
			演習 () 分
準備物			まとめ () 分

パワーポイント	説明
<p>校内研修動画【A】</p> <p>「主体的・対話的で深い学び」について</p> <p>愛媛県総合教育センター 教科教育室</p>	
<p>愛媛県総合教育センター</p> <p>Ehime Prefectural Educational Research Center</p>	
<p>校内研修動画【A】</p> <p>「主体的・対話的で深い学び」について</p> <p>研修のねらい</p> <p>学習指導要領に示された「主体的・対話的で深い学び」について理解を深める。</p>	<p>研修動画 A は、「主体的・対話的で深い学び」についてです。</p> <p>本研修のねらいは、学校全体で授業改善に取り組むために、学習指導要領に示された主体的・対話的で深い学びについて理解を深めることです。</p>
<p style="text-align: center; margin: 0;">新しい学習指導要領の理念</p> <p style="margin: 5px 0;">目指すのは「社会に開かれた教育課程」の実現 「よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る」</p> <div style="border: 1px solid red; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ol style="list-style-type: none"> 1 学習指導要領等の枠組みの見直し 2 教育課程を軸に学校教育の改善・充実の好循環を生み出す「カリキュラム・マネジメント」の実現 3 「主体的・対話的で深い学び」の実現（「アクティブ・ラーニング(A.L)」の視点） </div> <p style="font-size: small; margin-top: 5px;">（「平成28年12月の中央教育審議会答申」pp.20-26）</p>	<p>新しい学習指導要領の理念として、「社会に開かれた教育課程」がキーワードとなっています。つまり、「学校教育は、社会とつながっている。よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る」という意識が必要です。</p> <p>そのために、「学習指導要領等の枠組みの見直し」、「カリキュラムマネジメント」、そして、「主体的・対話的で深い学び」の実現が求められています。</p>
<p style="text-align: center; margin: 0;">学習指導要領改訂の方向性</p> <p style="font-size: small; margin-top: 5px;">（「中教審答申」補足資料p.6）</p>	<p>今回の改訂では、「何を学ぶか」という学習内容等の検討とともに、「どのように学ぶか」という学びの改善の視点が重視されています。「何を教えるか」から「どのように学ぶか」という、「ティーチング」から「ラーニング」への転換が求められており、その学びの改善の視点として、「主体的・対話的で深い学び」がクローズアップされています。</p>

<p>育成を目指す資質・能力の三つの柱</p> <p>学びに向かう力 人間性等</p> <p>どのように社会・世界と関わり、 よりよい人生を送るか</p> <p>アクティブ・ラーニングの視点による授業改善 (授業のイノベーション)</p> <p>カリキュラム・マネジメントの充実 (カリキュラムのデザイン)</p> <p>何を理解しているか 何ができるか</p> <p>知識・技能</p> <p>理解していること・できる ことをどう使うか</p> <p>思考力・判断力・表現力等</p> <p><small>(「中教審答申」補足資料p.7)</small></p>	<p>こちらは、育成を目指す資質・能力の三つの柱の部分です。これからの子どもたちは、「知識・技能」だけでなく、「理解していること・できることをどう使うか」という「思考力・判断力・表現力等」、「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか」という「学びに向かう力・人間性等」、これら全てを、総合的に育てていくことが、一層必要となってきます。このために、主体的・対話的で深い学びが必要であり、これを実現するための両輪が、「アクティブ・ラーニング」の視点による授業改善と、「カリキュラム・マネジメント」の充実であるとされています。</p>
<p>「主体的な学び」実現のために</p> <p>学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、<u>見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」</u>が実現できているかという視点。</p> <p>「見通し」と「振り返り」</p> <p><small>(「中教審答申」p.50)</small></p>	<p>それでは、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくりについて考えてみましょう。</p> <p>「主体的な学び」の実現のためには、「見通し」を持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を「振り返って」次につなげるという視点が必要です。</p>
<p>「主体的な学び」実現のために</p> <p>子ども自身が興味を持って積極的に取り組むためには</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学習活動を自ら振り返り意味付ける ○ 身に付いた資質・能力を自覚・共有することなどが重要！ <p><small>(「中教審答申」p.50)</small></p>	<p>子どもが「見通し」を持って積極的に学習に取り組むようにするためには、学習のねらいを明確にしたり、学習の最後に、自らの学習を「振り返り」意味付けさせたりすることによって、しっかりと自分で自分の学びを捉えさせることが重要です。</p>
<p>「対話的な学び」実現のために</p> <p>子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、<u>自己の考えを広げ深める「対話的な学び」</u>が実現できているかという視点。</p> <p>言語活動の充実も引き続き重要！</p> <p><small>(「中教審答申」p.50)</small></p>	<p>「対話的な学び」の実現には、「身に付けた知識・技能の定着」を図るとともに、「物事の多面的で深い理解」のために、「多様な表現を通じて、教職員と子供や、子供同士が対話」することによって「思考を広げ深めていくこと」が求められます。「先哲の考えを手掛かりに」とあるように、書物との対話、自分自身との対話も大切です。</p> <p>また、「対話的な学び」は、これまでの学習指導要領でも示されていた「言語活動の充実」との共通点があります。言語活動の充実は引き続き重要です。</p>
<p>「対話的な学び」実現のために</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 異なることがメリットになるという理解をする ○ 力を合わせると、一人で考えるよりいいものができるという経験を積む <p>ことなどが大切！</p> <p><small>(OECDのPISA2015年協同問題解決能力調査の結果から見える日本の現状)</small></p>	<p>アクティブラーニングを意識した対話は、「言いつぱなし」「聞きっぱなし」ではなく、知識や経験等を関連付けることを促した「聞き合い、学び合い、高め合い」を、意識したものである必要があります。他者の発言を受け入れる姿勢を育てること、異なる意見もメリットになるという理解をすることや、力を合わせると、一人で考えるより、いいものができるという経験を積むことが大切です。</p>

「深い学び」実現のために

習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」が実現できているかという視点。

(「中教審答申」p.50)

今回の学習指導要領の改訂で、全ての教科等で整理されているのが、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」です。「深い学び」実現のためには、「見方・考え方」を、習得・活用・探究という学びの過程の中で働かせることを通じて、より質の高い深い学びにつなげることが重要です。

「深い学び」実現のために

「知識の関連付け」を意識しましょう



活用する・発揮する
丁寧に振り返り・熟考する

教える場面と、子どもたちに思考・判断・表現させる場面を効果的に設計し、関連させながら指導しましょう!

- ・「教える場面」と「思考・判断・表現させる場面」のバランス
- ・意図した仕掛け

(「中教審答申」p.50)

そこで、「深い学び」の実現のために、「知識の関連付け」を意識しましょう。一つ一つの知識は「活用すること、丁寧に振り返ること」でつながっていきます。そして、繰り返し「活用・発揮する」場面を用意することで「深い学び」が実現します。授業の中で子どもが自分の考えを発言し、友達の発言を丁寧に聞き取り、また自分の考えを伝えていく。さらに、授業の中で、文字言語を使って、自分の考えを丁寧に振り返り、熟考する場面も大切です。

深い学びを実現させるために、「教える場面」と「子どもたちに思考・判断・表現させる場面」を効果的に設けて、指導することが求められています。つまり、「深い学び」の実現には、当然のことですが「教える場面」も大切だということです。話し合うためのベースになる「知識」が必要だからです。基礎・基本のないところに、よりよい思考・判断・表現は生まれません。そういう意味でも、「教える場面」と「思考・判断・表現させる場面」のバランスや、「意図した仕掛け」が大切になります。

「深い学び」と「見方・考え方」

学びの「深まり」の鍵となるもの
=各教科等の特質に応じた「見方・考え方」

見方：どのように対象を捉えるか
考え方：どのように対象と関わり、対象にせまるか

教科等固有の学びの有り様

各教科等の学びの過程の中で
資質・能力をさらに伸ばす
新たな資質・能力を育むことが重要

『深い学び』国学院大学 田村学教授 著

今回の学習指導要領の改訂で、学びの「深まり」の鍵となるものとして「見方・考え方」が示されています。「見方・考え方」とは、「大人になって生活していくに当たっても重要な働きをするもの」、「教科等を学ぶ本質的な意義の中核をなすもの」として、「各教科等の教育と社会をつなぐもの」と「中教審答申」で示されています。ここで、気を付けておきたいことは、見方は「どのように捉えるか」という教科固有の対象を捉える視点、考え方は「どのようにせまり関わるか」という教科固有のアプローチのしかた、プロセスであって、「見方・考え方」それ自体は資質・能力には含まれるものではない、すなわち、「見方・考え方」は、あくまでも、「資質・能力」を育成していく上で活用すべき視点・考え方であるということです。ですから、各教科等で「資質・能力がさらに伸ばされ、新たな資質・能力が育成」されていくために、各単元等で目指す「資質・能力」を明確にすることが大切です。

「主体的・対話的で深い学び」実現のために

授業者が提供したい雰囲気

- 1 私には伝えたいことがある
- 2 私の考えは歓迎される
- 3 他の人と一緒に考えると自分の考えはよくなっていく

話す、聞くための
「安心安全の場」

主体的・対話的で深い学びを授業の中で実現するために、授業者として提供したい雰囲気についてまとめました。子どもたち個々が持っている知識や体験、考え方は、それぞれ異なります。それらを共有しながら全体で考え方を深めるためには、自分を表現しやすい雰囲気作りが必要です。

<p>単元等のまとまりを見通した学びの実現</p> <p>1 単位時間の授業の中で全てが実現されるものではない</p> <p>単元や題材のまとまりの中で 「どこに設定するか」「どのように組み立てるか」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 主体的に学習を見通し振り返る場面 ○ グループなどで対話する場面 ○ 子どもが考える場面と教員が教える場面 <p style="text-align: center;">↓</p> <p>「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を考えることは、単元や題材など内容や時間のまとまりをどのように構成するかというデザインを考えること。</p> <p style="text-align: right; font-size: small;">(「中教審答申」p.52)</p>	<p>「主体的・対話的で深い学び」は、1 単位時間の授業の中で全てが実現されるものではない、ありません。</p> <p>単元や題材のまとまりの中で、主体的に学習に取り組めるように学習を「見通す」場面、学習を「振り返って」自身の学びや、変容を自覚できる場面、ペアやグループなどで「対話」し考えを深める場面、また、「子どもが考える」場面と「教員が教える」場面などを、「どこに設定するか」「どのように組み立てるか」といった点を意識して、「深い学び」の実現を目指していただきたいと思います。つまり、これまでしてきたことを、子どもたちの学びの姿をイメージしながら、改めて意識して、ここは「教える」場面、ここは「考える」場面という「設定」を、しっかりと考えることが、授業改善のキーになります。すなわち、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を考えることは、単元等の構成をどうするか、デザインを考えること、「学びの地図」を考えること、と言えます。</p>
<p>【参考文献】</p> <p>田村学 (2018) 『深い学び』 東洋館出版社</p> <p>【参考資料】</p> <p>動画視聴・資料ダウンロードできます</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 新しい学習指導要領について <ul style="list-style-type: none"> ・ 文部科学省 学習指導要領「生きる力」 https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/index.htm ・ 教職員支援機構 新学習指導要領編（校内研修シリーズ） https://www.nits.go.jp/materials/youryou/ 	<p>参考文献・参考資料です</p>
<p>【参考資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 主体的・対話的で深い学びについて <ul style="list-style-type: none"> ・ 教職員支援機構（アクティブ・ラーニングに関する情報） https://www.nits.go.jp/jiseda/ ・ 国立教育政策研究所（プロジェクト研究「学校における教育課程編成の実証的研究」平成29年度～令和3年度） https://www.nier.go.jp/05_kenkyu_seika/pdf_seika/r02/r020603-01.pdf ○ 授業づくりについて <ul style="list-style-type: none"> ・ 愛媛県総合教育センター 授業改善のための「授業づくりに関するブックレット」 https://center.esnet.ed.jp/shiryu_top/booklet 授業改善のための「授業づくりに関する資料」 https://center.esnet.ed.jp/shiryu_top/siryu ◆ 総合教育センターホームページ「学習指導資料」には、授業等に役立つ様々な資料が掲載されています。 	
<p>校内研修動画【A】</p> <p>「主体的・対話的で深い学び」について</p> <p>研修のねらい</p> <p>学習指導要領に示された「主体的・対話的で深い学び」について理解を深める。</p>	<p>さて、本日の研修のねらいは、達成できたでしょうか。</p> <p>先生方お一人だけで、実現することが難しい場合もあると思います。ぜひ、職員室で、違う学年の先生や担当教科が違う先生とも普段からどんどん話をし、教師も「主体的・対話的で深い学び」を起し、学校全体で取り組んでいきましょう。</p> <p>お疲れさまでした。</p>
<p style="text-align: center;">愛媛の子どもたちのために</p>	